

長野県

土木施工管理技士会報

第56号

2025年(令和7年)

3月31日

発行 長野県土木施工管理技士会 〒380-0824 長野市南石堂町1230 長建ビル
TEL026-228-7200(代) FAX026-224-3061
発行責任者 唐木和世 制作 新建新聞社



一級河川千曲川 中野市 上今井遊水地排水樋門
写真提供: 国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所・北野建設株式会社

令和6年度長野県土木施工管理技士会通常総会(令和6年6月19日)

令和6年度の通常総会は、令和6年6月19日に長野市のホテル国際21において行われました。

来賓9名にご出席いただき、建設技術者の表彰伝達を行った後、令和5年度事業報告・収支決算、会則等の一部改正、令和6年度事業計画・収支予算案について承認されました。



受賞者からの謝辞

また、任期満了に伴う役員選任が行われ、新会長に唐木和世様が選出されたほか、23名の役員が新たに選出され、新体制による令和6年度技士会活動がスタートしました。



挨拶する唐木新会長

令和6年度長野県公共事業担当部局との意見交換会(令和7年2月14日)

令和7年2月14日に長野市のホテル信濃路で、長野県との意見交換会を実施しました。長野県からは折井技術管理室長様をはじめ公共事業担当部局の10名の方々にご出席いただきました。一方、技士会側では技士会役員、技術委員会役員26名が出席して、技士会からの提案議題について、県側から回答をいただく形式で活発に意見交換を行いました。

技士会から議題20題を提出しました。内訳は、ICT・BIM/CIMが3題、工事書類が8題、残土処理1題、成績評定3題、設計積算4題、その他1題となっています。

議題の中で、「橋梁補修の出来形管理基準等が明確にされていないため、基準を決めていただきたい。」という要望があり、県から「ご意見を参考にしながら検討していきたい。」との回答がありました。

「舗装の温度管理について、品質管理基準の測定頻度を減らすことはできないか。」という要望に対して、県から橋梁補修と「同様に考えている。」との回答がありました。

「残土処分場の発注機関での確保」という要望については、「しばらく前から我々の課題だと認識している中で、盛土規制法の区域指定が始まり、手続き等始めてみないとわからない部分もあるので、いろいろ

ご相談いただきながら、問題が起こったらその都度解決していくような形で進めていければ。」との話がありました。

「工事成績評定の測定数10点以上とそれ未満の課題」については、「何年も前からの課題であるが、基本的に国の基準を使っていて、県に合うようにマイナーチェンジを重ねてきているところだが、今は工事の規模、測点数で、難易度の部分を考えている。不公平感を感じられているということだと思う。皆さんと研究していきたい。」との話がありました。

意見交換会の最後に、技術管理室の玉川主任専門指導員から、以上の議題についての総括及び「発注機関の職員の業務についてもできるだけ改善してまいりたい。」とのまとめがありました。



意見交換の様子

(敬称略)

令和6年度全国土木施工管理技士会連合会表彰受賞者名簿

表彰規定 該当事項	受賞者名	受賞者所属	備 考
第3条 (2)ロ	小林 一吉	(株)小林組	永年にわたり役員、または委員会の委員として尽力し、その功績が顕著な方。
	小松 保久	(株)小松組	
第4条 第2項	北村 義治	(株)小池組	優良工事として表彰された公共工事に、監理技術者または主任技術者として従事した技術者及び優良技術者として表彰された者で、他の模範となる方。
	今井 賢太	(株)サンタキザワ	
	長島 輝男	木曾土建工業(株)	
	宮下 克寛	北沢建設(株)	
	渡邊 忠芳	(株)フカサワイール	
	瀧野 英樹	松本土建(株)	

令和6年度 長野県技士会長表彰受賞者名簿

支部名	受賞者名	表彰者所属	支部名	受賞者名	表彰者所属
南佐久	川村 順一	(株)川村建設	松 筑	赤塚 治信	共立建設(株)
佐 久	柳澤 章一	大井建設工業(株)	安曇野	二木 弘	(有)ニッコウ
	満木 一志	竹花工業(株)	大 北	丸山 博行	遠藤建設(株)
上 小	金森 潤哉	(株)堀内建設		高橋 翔太	(株)相模組
諏 訪	高山 志郎	(株)常富興業	更 埴	高野 和夫	(株)武田組
伊 那	白鳥 和宣	箕輪建設工業(株)	須 坂	山本 仁一	(有)カネト建業
	久保田 伸	(株)久保田組	中 高	江澤 剛志	中野土建(株)
飯 田	鈴木 功治	吉川建設(株)		清水 成喜	(株)塩川組
	野牧 慎治	(株)トライネット	長 野	村松 直敏	村松建設(株)
木 曾	砂山 右近	山一建設(株)	飯 山	廣瀬 政之	(株)廣瀬建設
松 筑	洞澤 幸一	奥原重機建設(有)			

第28回土木施工管理技術論文・技術報告受賞者名簿

賞	題名	所属	表彰者名
技術報告 優秀賞	『仮設作業構台によるコスト削減の達成』	(株)倉品組	川田 幸二

令和6年度長野県技士会事業報告

- 5月16日 第1回監査会、役員会 長野市(長建ビル)
 ① 会計監査
 ② 第40回通常総会開催について審議 ほか
- 5月31日 (一社)全国土木施工管理技士会連合会 通常総会 東京都(アルカディア市ヶ谷)
 定時総会・表彰式
- 6月19日 第40回通常総会開催 長野市(ホテル国際21)
 ① 全国技士会連合会(全技連)表彰伝達ほか 30名
 ② 5年度事業報告、5年度収支決算承認
 ③ 会則等の一部改正議決
 ④ 6年度事業計画(案)、6年度予算(案)議決
 ⑤ 役員(会長、副会長、理事、監事)選任
- 8月2日 新旧役員会 長野市(長建ビル)・・・6年度活動方針、活動計画、活動体制等(案)審議ほか
- 8月29日 全技連 JCMセミナー「現場の創意工夫Ⅱ」松本市(サテライト会場:松筑建設会館)39名
- 9月2日～10月10日 全技連・長野県技士会
 令和6年度 土木施工管理技士へのアンケート調査(対象者100名)
- 9月3日 第1回技術委員会 長野市(長建ビル)・・・委員長、副委員長の選任、活動方針審議 ほか
- 9月11日 第1回企画・運営委員会 長野市(長建ビル)・・・第1回現場技術研修会について
- 9月12日～13日 全技連 現場視察 新潟県(大河津分水路、栗ノ木バイパス、新潟海岸)
- 10月17日 第1回広報委員会 長野市(長建ビル)・・・本年度技士会報発刊について
- 11月7日 第1回現場技術研修会 36名
 ①上今井遊水地排水樋門工事(中野市)
 事業主体:国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所
 ②百合居橋上部工工事(栄村)
 事業主体:長野県北信建設事務所
- 11月26日 中間監査、第3回役員会 長野市(長建ビル)
 ①会計監査
 ②令和6年度上半期事業報告及び上半期収支決算報告
 ③講習会剰余金に関する処理方針、令和6年度補正予算(案)、臨時総会の開催について
 ④県技士会設立40周年への対応について
 ⑤令和6年度長野県公共事業担当部局との意見交換会への提案議題について 他
- 12月2日 臨時総会開催(書面方式)通知発出(代議員投票提出期限12月16日)
- 12月24日 第2回技術委員会 長野市(長建ビル)・・・長野県公共事業担当部局との意見交換会への提案議題について(各支部からの説明・検討及び整理)
- 12月26日 第4回役員会 長野市(長建ビル)
 ①令和6年度臨時総会の採決結果について
 ②長野県公共事業担当部局との意見交換会への提案議題について ほか
- 2月12日 関東ブロック技士会連合会 令和6年度ブロック会議及び現場視察会
 会議:東京都中央区 現場視察:埼玉県和光市
- 2月14日 第2回広報委員会 長野市(ホテル信濃路)・・・設立40周年記念リーフレットについて
- 2月14日 長野県公共事業担当部局との意見交換会 長野市(ホテル信濃路)
 議題「長野県が発注する公共工事の諸課題」
- 2月21日 第2回現場技術研修会 39名
 ①国道18号上田BP神川橋上部3外工事
 事業主体:国土交通省関東地方整備局長野国道事務所
 ②国道141号浅蓼大橋上部工工事
 事業主体:長野県佐久建設事務所
- 通 年 各支部技術者セミナー等開催
 入会手続き・会員名簿の管理 随時(事務局)

講習会

6月5日～6月7日	1級土木受験準備講習会(第1次)	(松筑建設会館)	受講者数 69名
8月27日～8月28日	1級土木受験準備講習会(第2次)	(松筑建設会館)	受講者数 50名
9月4日～9月6日	2級土木受験準備講習会	(松筑建設会館)	受講者数 60名

長野県土木施工管理技士会役員

役職名	支部名	氏名	会社名	担当	
会長	伊那	唐木 和世	廣瀬建設工業(株)		
副会長	上小	石塚 博敏	(株)宮下組	広報委員会担当	
	松筑	関川 光寿	(株)関川組	企画・運営委員会担当	
	更埴	武田 敏光	(株)武田組	技術委員会担当	
理事	東信	南佐久	渡邊 哲司	(株)渡辺組	企画・運営委員
		佐久	黒澤 和之	大進建設(株)	広報委員
		上小	岩下 通孝	(有)岩下組	企画・運営委員
	南信	諏訪	高山 徳也	藤森土木建設(株)	企画・運営委員
		伊那	黒河内勇雄	黒河内建設(株)	企画・運営委員長
		飯田	棚田 稔	長豊建設(株)	広報委員長
	中信	木曾	青木 孝尚	木曾土建工業(株)	企画・運営委員
		松筑	草田 章夫	(株)草田組	広報委員
		安曇野	等々力 充	(株)武井組	企画・運営委員
		大北	遠藤 清門	遠藤建設(株)	広報委員
	北信	更埴	笠井 識敬	(株)笠井建設	広報委員
		須坂	市川 興助	市川建設(株)	広報委員
		中高	丸山 浩次	中野土建(株)	企画・運営委員
		長野	和田 幸文	(株)和田組	広報副委員長
		飯山	半藤 大輔	(株)野沢総合	企画・運営副委員長
	事務局	専務理事	小林 敏昭	県協会専務理事	
常務理事		岩下 康之	県協会常務理事		
監事	東信	佐久	堀籠 茂文	(株)安土倍組	
	中信	安曇野	堀内千一郎	(株)堀内組	
	北信	飯山	小松 正和	小松建設(有)	

長野県土木施工管理技士会技術委員会

役職名	支部名	氏名	会社名
担当副会長	更埴	武田 敏光	(株)武田組
委員長	飯山	滝沢 卓也	(株)サンタキザワ
副委員長	上小	北沢 智明	(株)宮下組
//	飯田	山本 仁	吉川建設(株)
//	長野	荻原 雅彦	(株)守谷商会
委員	南佐久	菊池 睦彦	寿建設工業(有)
//	佐久	佐藤 謙也	(株)小宮山土木
//	諏訪	鈴木 光一	スワテック建設(株)
//	伊那	鎌田 義信	清野建設(株)
//	木曾	原 澄人	奥田工業(株)
//	松筑	大野 哲治	(株)大野建設
//	安曇野	松澤 建治	(株)松澤組
//	大北	中田 一博	金森建設(株)
//	更埴	中村今朝雄	(有)大地
//	須坂	鈴木 悦夫	マツナガ建設(株)
//	中高	北原 隆夫	平穏土建(株)

令和6年度現場技術研修会報告

令和6年度の現場技術研修会は11月と2月の2回実施され、北信地域と東信地域の国ならびに県発注工事現場を視察しました。

第1回は、令和6年11月7日(木)に以下の工事箇所において研修を実施しました。

第1回

- ①上今井遊水地排水樋門工事(中野市)
- ②百合居橋上部工工事(栄村)

①の「上今井遊水地排水樋門工事」は、令和元年東日本台風豪雨で千曲川流域での甚大な被害を受け策定された「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」により流域一体となった防災・減災対策を推進する取り組みとして、中野市上今井地区において旧河川敷を利用した遊水地を整備し、洪水時に最大約640万㎡の水を一時的に貯水し、本川水位低下させて洪水の際に安全性を高める施設の工事です。排水樋門は遊水地に貯水した水を本川に排水するための水路で、内空断面高さ6m・幅5mの非常に大きなコンクリート構造物です。研修時点では延長51.8mの樋門本体部分は打設が完了し、今後は上下流の翼壁工事を行うとのことでした。

②の「百合居橋上部工工事」は、①の工事を行っている千曲川の約40km下流に架かる県道橋の架け替え工事です。こちらでも東日本台風の際に千曲川の洪水被害を受けたため、河積拡大させる河川改修に伴い現橋の架け替えが必要となったものです。橋梁形式は2径間連続非合成鋼箱桁橋です。豪雪地帯であることから湯水期の施工可能な時期が限定される等により、河川内での架設が困難なため、右岸側から主桁を送り出す「送出し架設」を採用しています。研修日は送り出し作業は行っていませんでしたが、架設足場に入らせていただき、高さ2.7mの大きな主桁を間近で視察す



百合居橋主桁を背景に

ることができました。

第2回は、令和7年2月21日(金)に以下の工事箇所において研修を実施しました。

第2回

- ①上田バイパス神川橋上部工工事(上田市)
- ②浅蓼大橋上部工工事(佐久市)

①の「上田バイパス神川橋上部工工事」は、国道18号における上田市街地の慢性的な交通混雑の緩和と交通安全の確保を目的とした東御市本海野から上田市上塩尻までの延長11.5kmのバイパス事業で、神川を渡る363m橋梁のうち渡河部にかかる橋長122mのPC3径間連続ラーメン箱桁橋の上部工の工事です。3径間の両側径間は固定支保工、真ん中の径間は片持ち張出工法で施工しています。片持ち張出工法は、ワーゲンと呼ばれる架設用移動作業車を用いて「やじろべい」のようにバランスを保ちながら順次張出していく工法で、本工事ではP8及びP9それぞれの橋脚から支間58mの中央に向かって桁を張出していきながら最後に閉合させています。

②の「浅蓼大橋上部工工事」は、国道141号の4車線化に伴い、佐久市跡部から小諸市平原までの間で残る平原大橋と浅蓼大橋の二つの橋梁の車線増設を行う事業のうち、佐久市の千曲川に架かる浅蓼大橋の鋼4径間連続箱桁橋128.9m(1工区)とPC8径間連結T桁橋57.1m(2工区)の工事において研修を行いました。平成8年の耐震基準により設計した既存橋梁完成後、その後に発生した東日本大震災を踏まえた平成24年の耐震基準策定に伴い、既存設計の問題点をクリアするために形式の見直しなど困難な課題を解決した上での工事とのことですが、研修時には両工区とも順調に架設作業が完了し、次の作業ステップに入っていました。



上田バイパス神川橋上にて(写真提供:株日本ピーエス)

話題 「2024年問題への取組」 ～令和6年度土木施工管理技士アンケート結果から

令和6年4月から建設業においても時間外労働の上限規制が導入されたことにより発生する問題、いわゆる「2024年問題」について、これを解決していくために「働き方改革」の取組が各企業において行われてきています。インフラ分野でのDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進がその取組の代表として上げられます。

長野県土木施工管理技士会では、一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会と共同で3年毎に実施している「土木施工管理技士へのアンケート調査」を令和6年度に実施しました。全国で4,190名、長野県技士会員100名がこのアンケート調査にご協力をいただき、令和7年1月に調査結果が連合会から公表され、回答は全国2,170名から寄せられました。このアンケートの「特別調査」として『時間外労働を抑制するための取り組み状況について』という調査を行っており、今回これに関する調査結果をご紹介します。

【問】あなたの勤めている会社では時間外労働を抑制するためにどのような取組をしていますか。

時間外労働を抑制するための取組	回答数	割合
工事受注を減らした	99	5%
現場の人数を増やした	444	20%
作業分担を見直した	463	21%
ICT導入により効率化を図った	406	19%
その他	195	9%
取組は行っていない	563	26%
合計	2,170	100%

この結果を見ると、限られた人員の中で集中化や配置の見直し、DXにより業務プロセスの改善に取り組んでいる状況がうかがえます。一方で、未だ取り組んでいないという回答も多く、この取組が難しい課題であるという様子が窺える結果となっています。

このような状況であることをふまえ、アンケートでは続けての設問で、取組への問題も記述式で回答を求めており、寄せられた意見をまとめると以下のような問題が見られます。

【問】時間外労働の上限規制を守るための取組による問題

時間外労働の上限規制を守るための取組による問題	意見数
人員不足・増員	376
経費上昇・利益減少	131
施工量減・工期遅延・書類遅延	238
現場管理が疎かになる	35
受注工事量の調整	81
技術力の低下・技術伝承が困難	44
サービス残業	139
管理職等へのしわ寄せ	18
技術者等の収入減	34
問題なし・記述無し	495

「問題なし・記述無し」を除き、意見の中で最も多かったのは、人が不足している、増員をどのようにしていくかという点です。次に多いのが、業務への影響です。さらに働き方改革の本来の趣旨に逆行するサービス残業という問題が次に多く寄せられています。

今回のアンケート結果からもわかるように「2024年問題への取組」は、全国的にいろいろ行われてきていますが、様々な問題を抱えており、今後様々な工夫を重ねながら進めていく必要があると思われます。

長野県技士会としても、この問題について会員の取組を支援するために今後とも積極的に対応してまいります。

※「土木施工管理技士へのアンケート結果」は連合会HP (<https://www.ejcm.or.jp/>) に掲載されています。

話題 「災害情報共有システム」

建設業協会では、災害時に県と協会で現地の被災状況をリアルタイムに共有し、迅速な意思決定や応急対応への支援を可能にする「災害情報共有システム」の運用を令和4年から開始しました。

現在、建設政策委員会が中心となって協会内におけるシステム活用の普及促進を図っていますが、今回はシステムの概要と今後の動向についてご紹介します。

1 システムの概要

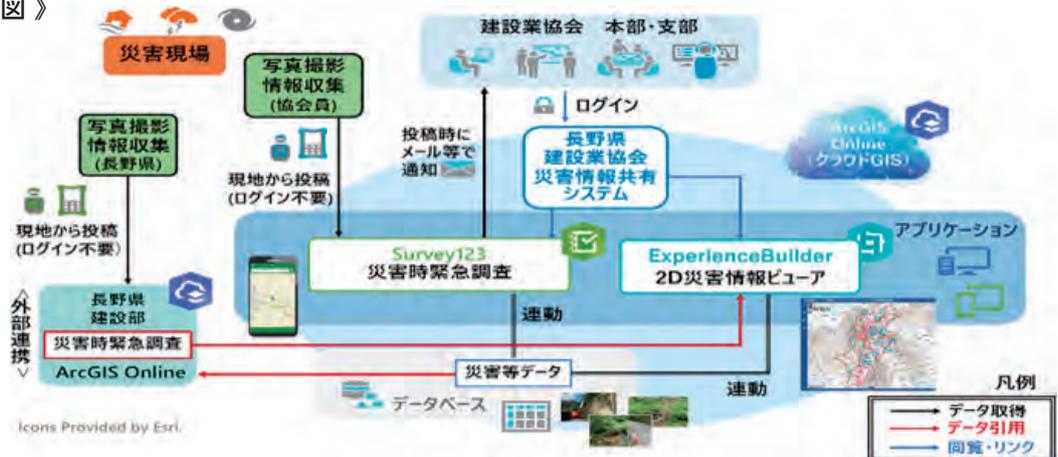
- ①スマホアプリ「ArcGIS Survey123」やWebブラウザからクラウド上の共有スペースへアクセス



- ②投稿した情報はクラウド上でリアルタイムに共有



《システムの概念図》



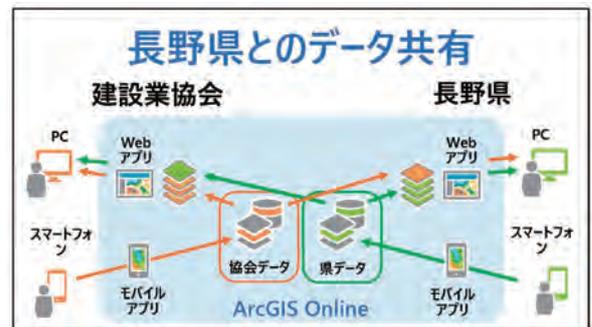
- ③写真以外の様々な情報を共有可能



- ④2D災害情報ビューアで閲覧可能



- ⑤県と協会が双方の情報を閲覧可能



2 今後の動向

- ①令和7年度、県と協力し緊急輸送道路のパトロール訓練（3回）を実施予定
- ②小規模補修等（平常時）のシステム活用に向け県と継続協議

支部活動報告 佐久支部 令和6年度の活動紹介

令和6年度、技士会佐久支部は長野県建設業協会佐久支部および建災防長野県支部佐久分会等と共催で活動を行いました。技術者セミナーは、多くの会員に参加していただくために、Web会議ツールを用いて実施されました。



『施工のノウハウ及び施工ミスを防止するには？』

令和6年8月28日(水)13時～17時

オンライン・佐久建設会館 (参加者58名)

◇施工ミスとは

◇我々が構築する土木構造物とは

◇土質基礎(土質・土質力学)

◇標準的な施工フロー

◇施工に対するリスクアセスメント

◇施工ミス事例

◇施工ミスを防止する取り組み

講師：(株)建設経営サービス提携講師 堀田孝氏



建設DX推進セミナー

令和7年1月22日(水)13時～17時

オンライン・佐久建設会館 (参加者56名)

◇建設DXを活用した施工と現場管理

(株)シーティーエス長野支店 鈴木俊介氏

◇バーチャル現場体験型施工管理教育システム

(株)コンピュータシステム研究所 岩田 柁己氏

◇3次元データを活用した現場ICT施工

福井コンピュータ(株) 後藤勇樹氏

三大災害絶滅推進大会(共催:建災防)

令和6年7月10日(水)13時～16時

佐久建設会館 (参加者43名)

◇建設業の安全対策について

講師：小諸労働基準監督官 丸山竜輝氏

◇蜂刺されによる労働災害防止について

◇熱中症対策について

講師：小諸労働基準監督官 福田大基氏

ミドリ安全(株)佐久営業所 畠山浩樹氏



小諸労働基準監督署の丸山竜輝氏は、管内で発生した労働災害について分析を行い、2023年度の死傷災害の発生状況から、墜落・転落災害や仮設物・構築物に起因する災害が増加していることを示しました。また、三大災害の具体例を挙げて、発生要因や対策について詳しく解説しました。

福田氏は、蜂刺されによる労災防止の重要なポイントについて言及し、作業現場での蜂の生息状況の確認や防蜂網などの適切な保護具の使用、救急用具の準備の徹底を呼びかけました。また、ミドリ安全の畠山浩樹氏が蜂刺されや熱中症対策について講話を行った。また、丸山氏が低層住宅建築工事における安全対策の重要性についても説明し、脚立やはしごの適正な使用、階段吹き抜け開口部での手すりや中さん、安全ネットの設置、屋根作業における墜落防止措置の徹底を求めました。

現場体験紹介

道路維持工事と 土木事業の 庶務に携わって

伊那支部
宮下建設株式会社
土木事業部
小澤伊奈美



私は伊那建設事務所発注の、道路維持工事と土木事業部の庶務業務を主に行っています。維持工事は電東JV4社で行っている中で幹事会社として、取りまとめを行っています。4月から12月まで32件ほどの作業がありました。主に道路補修・倒木処理・側溝落ち葉の片付けなどの道路維持に関係する、作業になります。依頼を受け現場に向かい、確認担当路線の会社と連絡を取り、作業後、月毎に報告清算し各社に請求をしてもらう、流れです。

初めて倒木災害があった時は、連絡を受け現場がどうなっているかまず向かい、人数、ダンプのサイズ・機材の段取りをつけ応援が来るまでの時間が長く感じたことを覚えています。強風や台風着雪などの時は会社のチームに声をかけて、深夜などの急な作業に、ならない事を祈っています。維持の仕事をするようになって、道路の状態を気にする事が増えました。いつも通っている道路が、誰かの管理によって通行できると実感していますが、こんな依頼なんてと思う作業もありますが、しかしそこで生活する人にとっては、切実な仕事なので。社会のために頑張ろうという気持ちで、行っています。各社日々の仕事の中で緊急作業に対応できる事も難しくなっている中で、手が回らない時は無理の無い範囲で良いと言われたので、気持ちが楽になっています。

土木庶務の仕事は注文書・請書の作成、請求書、出勤管理、残業時間のチェック、有給消化などの確認になります。インボイス制度になったことにより、紙の物・電子の物と間違いの無いように確認することも増え、なかなか大変な作業です。後は各現場の試験場への供試体の持ち込み、現場の困った時の対応をしています、打設中なんだけど、パイプレーターの調子が悪くなった。工事看板やコーンが足りなくなった。舗装のスミをだしたいので、車の誘導をしてほしい。などなど現場の要望に沿ったサポートを行っています。

女性が現場で働く事は、本人にしてみれば特別な事ではないのですが。現場説明会を行い現場作業にはいると、男性社会の仕事のため、男性に間違えられることがあります。(体型が、ガッチリしている事もありますが 笑)男性か女性か？家庭近所の話題になって、早く覚えてもらえています。30数年この建設業で、働きながら2人の子育て、親の介護も終え。ようやく自分の時間を有意義に使えるようになって、女性として充実した日々をすごしています。



コンクリートの ひび割れ防止 対策と 養生期間について

株式会社山本組
小林 誠



過去の工事になりますが、 $H=9.3m$ $V=270m^3$ の橋台工事を施工しました。私の経験では $V=270m^3$ の大型コンクリート工事は初めてであったため、かなり不安でした。不安要素としては、コンクリートにひび割れが生じないか？でした。色々調べましたが温度応力解析にて橋台の応力のかからない箇所に誘発目地を設置する・発熱量の低い中熟セメントを使用し発熱速度を遅くすることにより温度ひび割れを防ぐこと等。色々と案はありましたが、費用が掛かります。当時の発注者様よりあまりお金をかけなくても設計コンクリート高炉BBセメントでひび割れの無い密実で良質なコンクリートを仕上げている業者はたくさんいることを聞きました。余計な費用をかけず、このくらいの規模のコンクリート構造物は仕上げられる。と、思考回路を変えいろいろ調べました。施工時期は冬季でしたので、マスコンクリート、及び 寒中コンクリートの施工時・養生時の留意事項を確認したところ、ひび割れの発生原因はコンクリートの内部温度と外部温度の差により発生することが多いということでした。これを注目し内部温度と外部温度に差がなければ有害なひび割れが発生しない。という、私の見解を決め、管理することとしました。

実施した内容は、コンクリート内部温度計を設置しコンクリート中心部の内部温度、コンクリート内部型枠際の外部温度。内部と外部の温度差を監視し、内部温度が上昇した際には養生囲い内温度を上げて差を少なくすることとしました。

一例ですが、第一リフト7チング 148㎡打設。打設日から約3日で内部温度が35℃まで上昇、外部温度は20℃、温度差は15℃であったためジェットターでの給熱養生を継続。その後、給熱養生期間12日間経過した時点でも温度差が15℃あったため型枠の脱型は行わず給熱養生を継続。打設日より20日経過した時点でも温度差は15℃ありましたが、外部温度が5℃を下回ったため脱型を行い給熱養生は継続しました。25日後内部温度が15℃になった時点で給熱養生を終了しました。結果、有害なひび割れの無いコンクリートを仕上げられたと思います。思ったよりコンクリート内部温度の下降が緩やかでしたので、養生期間の大切さがわかりました。私の見解は良いコンクリートを仕上げるためには、養生が一番大切だということを知りました。工期の関係等で養生期間を省くと、良質なコンクリート構造物ができなくなると思いました。これからも、養生温度管理等を確実に良いコンクリート構造物を仕上げたいと思います。



会員のこえ

働き方改革について

須坂支部
須坂土建工業(株)
中山藍都

建設業界では、日本経済の重要な基盤を支える一方で、慢性的な長時間労働や人手不足、高齢化といった課題に直面しています。このような状況を打破し、持続可能な業界を実現するためには、「働き方改革」が不可欠です。

まず、建設業界における長時間労働の改善が必要です。

弊社では、年間休日が120日を超え、ワークライフバランスの向上や人材確保など満足度向上につながっています。その反面、工期管理の難化や労働時間短縮による生産性の低下などがあげられます。この問題を解決するためには、工期管理の効率化、ICT活用、下請けとの連携強化でこのデメリットを軽減しなければと考えています。

次に、人材不足への対応も課題です。若年層の建設業離れが進む中、魅力的な職場環境を整備し、若い人材を積極的に取り込む必要があります。そのためには、ICT（情報通信技術）やAIを活用した建設現場の効率化が求められます。たとえば、BIM/CIM（建設情報モデル/

土木情報モデル）の導入により、設計から施工までのプロセスを効率化し、労働負担の軽減を図ることができます。また、ドローンなどの新技術の活用も進めるべきです。

さらに、多様な働き方の実現も重要です。女性や高齢者の活躍を促進するため、柔軟な勤務体制や働きやすい現場環境を整備する必要があります。たとえば、女性専用の更衣室やトイレの設置、高齢者が無理なく働ける軽作業の導入など、誰もが安心して働ける職場作りが求められます。

建設業における働き方改革は、業界全体の持続的な成長と競争力強化につながります。労働環境の改善、人材確保、新技術の導入など、多方面からの取り組みを進めることで、建設業が社会の信頼を得るとともに、次世代の担い手が活躍できる魅力的な業界となると私は思います。



中高支部
中沢建設(株)
春原大誌



中沢建設株式会社は、創業90年と長年にわたり建設業界で信頼を築きながら、時代の変化に合わせた働き方改革を積極的に進めてきました。特に近年、労働環境改善への社会的要請が高まる中、弊社でもさまざまな取り組みを推進しています。

現在、建設業界では深刻な人手不足が課題となっており、限られた人材で効率的に業務を進めることが求められています。弊社では、少数精鋭の体制を強化し、各従業員が専門性を発揮し、一人ひとりが責任を持って業務に取り組む仕組みを築いています。この体制により、従業員同士の距離が近く、現場での意見や改善提案が迅速に経営に反映される、風通しの良い環境を実現しています。その結果、現場のニーズに迅速に対応し、効率的な業務遂行が可能となっています。

また、社会的要請に応え、週休二日制を導入して従業員の休息を充実させています。これまで長時間労働や休日出勤が一般的とされてきた建設業界ですが、弊社ではこの慣習を見直し、従業員の心身の健康を守るために休日の確保に努めています。こうした取り組みにより、従業員がプライベートを充実させ、自己啓発やス

キル向上のための時間を持てる環境が整っています。

さらに、技術進化に対応し、ITツールの導入を加速させています。クラウドを活用した現場進捗管理や施工記録のデジタル化などにより業務効率を上げ、労働時間の削減にも成功しています。これにより、従業員がより集中して仕事に取り組み、業務の質向上にもつながっています。

加えて、弊社は従業員の健康管理にも注力しています。定期健康診断やメンタルヘルスケアを通じて心身の健康維持を支援し、安心して働ける職場づくりを進めています。特に、ストレス管理や休暇取得の奨励など、健康経営の一環として従業員の健康を第一に考えた体制を整えています。

中沢建設株式会社は、これからも働き方改革を推進し、柔軟で働きやすい環境を整えることで少数精鋭の力を最大限に発揮し、企業としての持続的な成長を目指します。今後も従業員の意見を積極的に取り入れ、時代に即した働き方を模索し、業界内外で一歩先を行く企業として成長していきます。

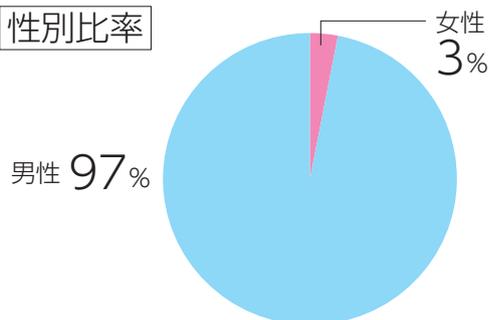


長野県土木施工管理技士会 会員状況

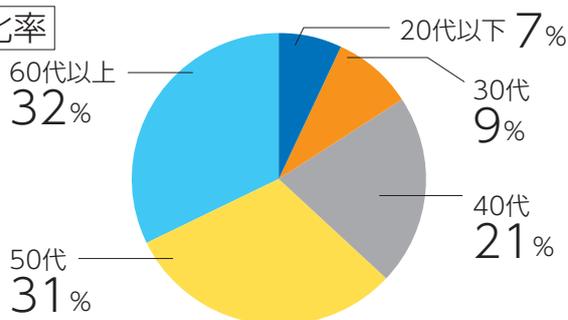
(令和7年2月末現在)

支 部	会員数	男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
南 佐 久	180	172	8	15	23	34	60	48
佐 久	265	253	12	11	16	43	72	123
上 小	134	123	11	7	13	28	30	56
諏 訪	259	255	4	19	28	53	93	66
伊 那	454	448	6	19	32	111	149	143
飯 田	462	452	10	39	45	103	126	149
木 曾	141	139	2	11	11	29	42	48
松 筑	378	367	11	24	41	66	120	127
安 曇 野	112	106	6	9	8	28	32	35
大 北	300	296	4	13	21	69	106	91
更 埴	56	52	4	0	1	5	20	30
須 坂	84	82	2	11	7	26	26	14
中 高	69	69	0	12	5	16	20	16
長 野	475	468	7	33	48	103	163	128
飯 山	171	167	4	13	30	41	35	52
合 計	3,540	3,449	91	236	329	755	1,094	1,126
比 率		97%	3%	7%	9%	21%	31%	32%

性別比率



年代比率



編集後記

広報委員 (株)草田組 草田章夫

今まで大きな病気にかからなかった私ですが、昨年10月入院するような大病にかかってしまいました。もともと風邪をひいたりすると咳が止まらなくなり、その症状が長引く傾向がありました。今回も2ヶ月程咳が出てそのうち治るだろうと思っていましたが、たまたま聞いたラジオで咳が長引き診察したら喘息だった人の話を聞き私も診療所に行ってみる事にしました。

レントゲン検査をしてもらいましたが原因が特定出来ず、設備が整った病院を紹介してもらいました。その病院に2回行きましたがなかなか症状が良くなりません。だんだんと息切れもするようになり思い切って他の病院に行ってみる事にしました。呼吸器内科の先生がいる午前中に行ってみましたが、とても混んでいて午後の診察に回されました。午後に行ってみると専門外の先生がいてまたしても原因が分からず後日呼吸器内科で診てもらう事になりました。

ようやく専門の先生に診てもらいCTスキャンしてもらった結果、肺炎だと判明しその場で入院を言い渡されました。成人してから初めての経験です、急遽用意をし1週間入院しました。点滴をしながら

寝ている事しか出来ず食事と小さなテレビで見る野球だけが楽しみでした。退院する頃には息苦しさは無くなりました。その後数年ぶりに尿路結石ができ泌尿器科も受診するなど大変な1年となりました。皆様もお忙しいとは思いますが不調を感じたら早めの受診をお勧めします。

この文章を書いている際に、埼玉県で下水道管破損による道路陥没のニュースが飛び込んできました。当社も上水道管漏水による道路修繕の夜間対応をしたことがあります、より深く大きな下水道管での対応は難しいと思います。下水道管路更生管理技士として下水道管の更生工事を経験しましたが、普段見えない部分だけに改めて道路橋梁と同じく上下水道管の維持補修も大事だと痛感しました。

最後に入院期間中技士会の会議を欠席するなど皆様にご迷惑をお掛けしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

